

見た人を明るくい気持ちに

今年度で8作目となる「金山町ふるさと壁画」が上中田地区内に完成し、11月11日に執り行われた除幕式において、地域の皆さんにお披露目されました。平成21年に始まった「ふるさと壁画」の制作は、国道13号線主寝坂道路に沿ったボックスカルバートを用いて、縦2m・横17mほどの大きな壁面に地域にまつわる絵画を描こうというプロジェクト。制作には子ども達も参加し、ふるさとづくりの第一歩として、数年間計画で実施している企画です。

今年度の作品のタイトルは『獅子の舞うふるさと』。昨年度に引き続き、東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コースの皆さんが制作を担いました。約2カ月の間、延べ12回にわたり現場を訪れ完成した大作。力強い獅子舞を中心に、中田地域の雄大な自然風景をパノラマ的に描きました。制作にあたっては、9月に行われた上中田まつりを取材するという徹底ぶり。獅子舞や囃子を奏でる子ども達も、実際に取材を通して目で見たものを忠実に描いたそうです。4年生の落合里香さんは「祭がメインの絵なので、鮮やかな色彩を大切にしたい。見た人が明るい気持ちになってくれると嬉しい」と作品への想いを語ってくれました。



8作目の中田地域ふるさと壁画

『獅子の舞うふるさと』



地域と壁画との関わり

絵画の中にある2つの円。この中には、中田地域の子も達に金山のものや好きなものを自由に描いてもらったそうです。子ども達にとって、これほど大きなキャンバスに描くことは貴重な体験。後世まで残る作品に関わることで、ふるさとを忘れないでほしいという願いもこもっているのです。

「壁画は太古からそこに住む人のためにある」そう話すのは制作を指揮した末永教授。続けて「このふるさと壁画が地域にとって宝物になるのか、ならず風化してしまうのかは住民の皆さんにかかっている」と地域と壁画との関わり方について示唆されました。

この場所がただの通り道ではなく、多くの人が集まる地域の拠点になってほしい。心からそう思います。

▼制作者（敬称略）

- 東北芸術工科大学 芸術学部 美術科 日本画コース
- 教授：末永 敏明
- 講師：金子 朋樹
- 4年：浅野 はつみ、櫻田 馨子、落合 里香
- 3年：神谷 咲、北澤 知佳、栗山 奏子、琢磨 香織、野田 苑恵、小林 さくら
- 2年：名和 雪菜、山田 竜馬、土田 翔、下田 美来
- 1年：關 越河

▼協力者

中田地域の子も達